

豊かで 伸びやかに そしてたくましく



スカウト みやぎ

No. 15

発行
日本ボーイスカウト宮城県連盟
発行日
平成19年10月30日



21WSJ派遣隊壮行式 平成19年7月20日 宮城県庁

第21回 世界スカウトジャンボリー派遣隊壮行式

ボーイスカウト創始100周年を記念してボーイスカウト発祥の地、英国に於いて世界55ヶ国と地域から指導者も含め4万人のスカウトが参加して開催される世界最大の青少年の祭典、第21回世界スカウトジャンボリー（21WSJ）に、宮城県連盟から17名のスカウトと7名の指導者達が派遣されることとなった。

出発に先立ち7月20日県庁に於いて、村井連盟長始め日本ボーイスカウト振興国会議員として、本大会に参加される西村明宏衆議院議員のご参席も戴き、千田理事長ほか県連理事、指導者、スカウトの家族など多数の人々が参加して県連盟派遣隊の壮行式が開催された。

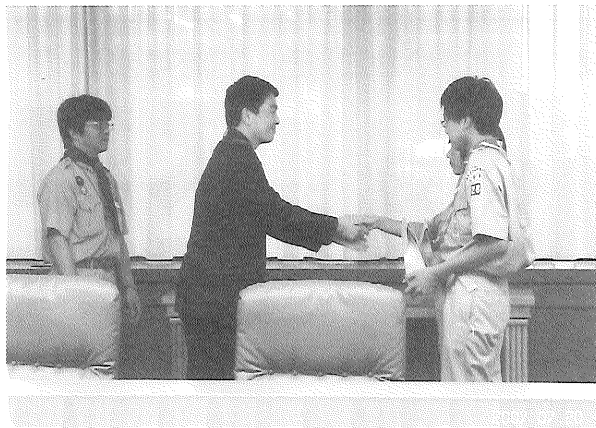
千葉県コミッショナーの司会により小山派遣隊長の紹介と派遣スカウトが紹介された後、世界ジャンボリー日本派遣隊A分団第1隊上級班長

の高橋涼君（名取第1団）から21WSJに参加に際し、家族や指導者に対する感謝の言葉に続いて、英国では様々な国のスカウト達と積極的に交流を計り、沢山の友達を作りたいとの決意表明があった。

続いて、村井連盟長より『世界のスカウトと未来を語り合い、技術を磨き、友情を深め合う時間を存分に楽しみ、ベーデン・パウエル卿が目指したスカウト運動の原点や「ひとつの世界、ひとつの誓い」という本大会のテーマを世界的視野から考える機会にして欲しい』との励ましの言葉を戴いた後、参加スカウト一人ひとりに励ましの握手があり、スカウト代表に記念品が贈られて壮行式は終了し、派遣スカウト達は喜びも新たに世界ジャンボリーに向けて大きくはばたいて行った。



決意表明する高橋君（名取第1団）



村井連盟長より、記念品授与

派遣されるのは、中学三年から高校三年までのスカウト十七人と指導者七人。代表して名取市の高橋涼君（モリノ宮城高専三年Ⅱが「さまざまなプログラムに積極的に参加し、多くの友達をつくつ

が県庁で行われた。派遣されるのは、中学三年から高校三年までのスカウト十七人と指導者七人。代表して名取市の高橋涼君（モリノ宮城高専三年Ⅱが「さまざまなプログラムに積極的に参加し、多くの友達をつくつ

八日に開幕する国際野営会「第二十一回世界ジャンボリー」に、日本ボーイスカウト県連盟（連盟長・村井嘉浩知事）が派遣する二十四人の壮行式が県庁で行われた。

仙台

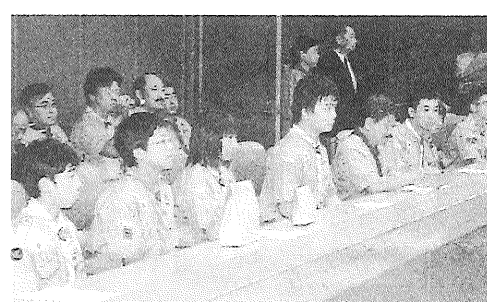
英国エセックス州で二十八日に開幕する国際野営会「第二十一回世界ジャンボリー」に、日本ボーイスカウト県連盟（連盟長・村井嘉浩知事）が派遣する二十四人の壮行式が県庁で行われた。

◆希望胸に英国へ

村井知事は「世界中のスカウトたちと未来を語り合い、自己の人間性を高める機会にしてほしい」と激励した。世界ジャンボリーは八月七日まで。全世界から四万人が参加し、環境保全や農業の手伝いなどのプログラムに取り組む。

（20日）

てきます」と語った。



世界ジャンボリーに派遣されるボーイスカウトのメンバー

河北新報 H19. 7. 26 朝刊

21WSJに参加して

私にとって初めての海外派遣。ボースカウト100周年記念という大舞台。

スカウトの頃からずっと目標にしていた派遣への参加が叶った喜びは今でも鮮明に覚えています。

リーダーとしての不安や迷い、仕事と原隊での活動と私個人の生活をうまく両立出来ない歯がゆさがこんなにも大変なものであると思わず、ある時は自信をなくし、ある時は何も手を付けたくない位気持ちが落ち込むこともありましたが、ですが、小山隊長、加藤副長、大丸副長に幾度と無く手助けを頂き、拙いものではありますが、こなすことができました。

我が1隊のスカウト達は北海道と秋田、岩手、宮城、山形、福島混成隊でGB訓練と2度の準備訓練を通し、アッパーパトロール、班、隊全体の結束を高めていきました。

私自身が今まで同じ地区の気心のしれた仲間

石巻第2団RS隊 立野智美

としか大会に参加したことがなかったので若干の不安もありましたが、スカウト達はすごく良い子達ばかりで、時間を共有していく中で自分の弟・妹のように思えてきて、めんこくてめんこくて仕方なかったです。

大会期間中は大きなけがも病気もなく全員が健康で楽しいときを過ごせたと思います、それもこれも隊長、副長のお二方、家族、原隊の指導者の皆さん、各県連の方々の支援があったからこそのものであると思っています。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回の派遣では私自身、得るものがたくさんありました。また私以上にスカウト達も得たものがあったと思います。

この経験を自分だけのものに止めず、今後のスカウティングに活かしていけたら、活かしていってくれたら本望であります。

21WSJに参加して

今回の21WSJに参加して私は日本と外国の常識の違い、スカウト活動の取組み方の違いを改めて実感しました。

常識の違いを感じさせられた出来事は21WSJ会場でプログラムに行く途中の道に、普通に食べ残しなどの生ゴミが大量に放置されていました。私は今までにこのような光景を見たことがありませんでした。そのゴミを見るたびに「道に生ゴミを捨てるなんて、これも常識の考え方の違いなのかな」と深く感じました。

スカウト活動への取組み方の違いを感じさせられたのは、自分達の隊のサイトによく遊びに来る外国スカウト達は、隊や班での行動ではなく2・3人で、のんびり気が済むまで遊んでいました。朝早く起床する国もあれば、のんびりと起床する国もありました。規模が世界ともなればスカウト活動への取組み方の違いが表れていました。

このキャンプでは班で女子が一人だったということで、班長はじめ班員のみんなにはとても気を遣わせてしまったと思います。でもみなさんの

第1隊 S I K A - G A T 'S 班 蟻坂みどり

おかげで21WSJの訓練キャンプからこの本番までを楽しく過ごせました。本当にありがとうございました。また、隊員、6団、家族に感謝したいと思います。

このメンバーで21WSJに参加できて本当に良かったし、楽しかったし、最高でした。

絶対、一生忘れません。



イギリスに来て

今回のブラウンシー島の見学、ロンドン市内の見学、21WSJ、ホームステイと、生まれて初めて日本を離れ、イギリスに来て一番初めに感じたのは、食文化の違いでした。

イギリスの米はタイ米で、自分はそれまでタイ米を口にしたことがありませんでした。だから、それを口にしたとき、すごく日本食の良さがわかりました。

21WSJ会場に入ってまず感じたのは、すごい広さだということです。数多くのサブキャンプの中、自分たちはジャングルSCでジャンボリー生活を送りました。ジャンボリーでは、開会式、閉会式はもちろん、サンライズセレモニー、場内プログラム、他に場外プログラムもしました。ここでは、スプラッシュやギルウェルアドベンチャーなど、数多くのプログラムをしました。

自分は、自分の班、大和魂班がすごく好きです。自分は2HTC、14NJと大会は2度行って今回は3回目になるけど、この大和魂が一番良い班だったと思います。この班は運が良い班とも思っています。当番班のときは難しい米を使った料理が無かったからです。

ホームステイでは、とても良い時間を過ごしました。初めはすごく緊張して、しかも英語がうま

第1隊 大和魂班 佐藤貢大

く話せないで、コミュニケーションをとるのに苦労しました。でもコミュニケーションをとっていくうちに、だんだんと相手の言っていることが理解出来るようになっていきました。

ホームステイではミュージアムに行ったり、東海林先輩と横山先輩とバーベキューをしたり、プールに行ったり、マックに行ったりしてとても楽しい時間を過ごしました。

今回の長期間にわたるイギリス滞在は、今後の自分のためだけでなく、隊長や後輩たち、親にしっかりと伝えていきたいです。



平成19年度第1回宮城県連盟コミッショナー会議開催

＝地区コミッショナー委嘱される＝

県連盟コミッショナー 千葉義博

去る7月1日「平成19年度第1回宮城県連盟コミッショナー会議」が、全地区のコミッショナーが出席のもと塩竈市公民館にて開催されました。

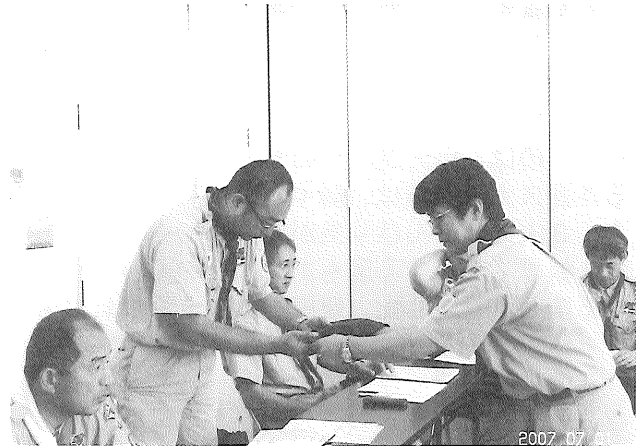
始めに、各地区の正・副・団担当コミッショナーの委嘱を行ない、コミッショナー責務の遂行と県連盟目標達成への助力協力をお願いいたしました。（任期は、平成19年7月1日～平成21年6月31日）

それぞれの責務についての確認と研究を行ない、特に団担当コミッショナーにおいてはこれまでの団への支援方法を一步前進させ、団の立場に立ってスカウティングの発展を支援出来るよう、アクションプラン等の活用と目標の設定を団と一緒に考えて考察するよう指示いたしました。

また、これまで以上にコミッショナーの役務を明確に出来るよう、すべてのコミッショナーが役務遂行時に着用する深緑色のチーフを作成いたしました。深緑色はスカウト教育法の「自然の中の活動」と「ちかいとおきての実践」を特に意

識し、「基本を大切に」の目標を強調し活動していきたくと思っています。

スカウティングに関することはなんでもご相談いただき、教育・指導面の責任者である、深緑色のチーフを着用したコミッショナーを是非ご活用下さい。



「ありがとうビーバー隊」



石巻第2団 ビーバースカウト隊 佐々木智康

今日は三滝堂公園へ行って川遊びをしました。そして、くりを集めてくり温泉を作りました。また、スイカ割りをしてスイカを食べておいしかったです。すごく楽しい1日でした。



仙台市教育長を表敬訪問

7月18日（水）の午後、井藤仙台地区委員長、和田副コミッショナー、柿沼広報委員長及び菅原総務委員長の4人が、新任の荒井崇仙台市教育長を表敬訪問し、和やかな雰囲気の中、30分に亘って懇談した。

日頃ボーイスカウト主催のイベント活動に対する後援を頂いていることへの感謝の思いを伝え、ボーイスカウト運動への理解と協力をお願いした。現在1才半のお子さんを持つ教育長から「ぜひスカウト運動に参加させたい」という力強い言葉を頂いた。なお教育長に資料（ボーイスカウトハンドブック、基本原則、教育規定集（18年度版）、パンフレット、スカウティング6月号、

仙台地区広報委員長 柿沼富雄

県運年次総会資料、スカウトみやぎ、）を贈った。



「福祉運動会に参加して」

石巻第2団 ボーイ隊副長 佐藤恵一

9月1日に行われた福祉運動会「おひさまといっしょに」に参加しました。

大会を支援する多くのボランティアの方が集まる中、当ボーイ隊は国旗掲揚を担当し、各種プログラムの奉仕、参加等を行いました。

ハンディキャップを持った方も健常者も一体となり、心のバリアフリーを目指す奉仕活動に参加できた事は、とても意義のある事だと思います。

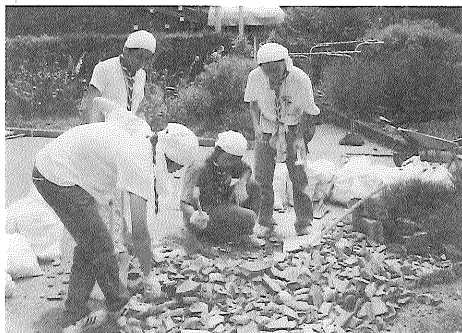
私達、ボーイスカウトは「いつも他の人々を助けます」という誓いのもと、ハンディキャップを持った方へ手を差し伸べる事により皆が笑顔になった事がとても印象的でした。

このような活動により、また少し心が優しくなれたように思います。



ベンチャー隊が災害支援へ出動

7月16日、新潟県中越地方を3年と経たず、またも震度6強という巨大地震が襲った。これにすぐ反応を示したのが早川裕介・遠藤洸平・秋葉啓・早坂卓也の4名のベンチャースカウトでした。



前回の中越地震の時は、団をあげて義援金募金活動を行って支援したのですが、その時にボーイ隊に在籍していたスカウト達は今

ベンチャースカウトとなり被災者の方々に自分たちは何かできないか？ちかいの「いつも他の人々をたすけます」を実践したいと前回同様、義援金募金活動

仙台第1団 ボーイ隊隊長 早坂光男

を柱に現地で支援活動しよう企画・計画を進め7月29日に募金活動を行いました。「みやぎ災害救援ボランティアセンター」からの派遣という形で8月6日～10日まで柏崎市ボランティアセンター西山支所に赴き、キャンプ生活をしながら崩れ落ちた石塀や倒壊家屋の廃材片づけ、落下した多量の瓦の片づけと極め付けは倒壊した墓石の片づけという非常に危険が伴う支援活動を行って参りました。私は引率兼現場監督？としてスカウトたちの安全管理者の立場で参加しましたが、ベンチャーはパワーがあり石塀や墓石を難なく片付けており私の出番は…。

今回の支援活動でスカウト達は口々に疲れたと言うけれど、生で地震のつめ跡を見せ付けられて地震の恐ろしさを知ったし、みんなで助け合う心の必要性を感じ取ったようです。最後に被災者の方々の一日も早い復興をお祈りいたします。

発団30周年記念行事2007年飯豊高原キャンプ

泉第2団 団委員長 下山政昭

7月28日から29日の1泊2日、山形県飯豊少年自然の家において2007年団キャンプを総勢24名参加で実施しました。

初日は、途中の七ヶ宿ダムに立ち寄り、流木による手足の動くカブトムシ作りをしました。子供たちは、満足そうに自分の作ったカブトムシを大きな箱に入れ大事そうに抱えていました。その後は、地底トンネルを見学し、現地へと向かいました。

現地到着後は、フィールドアスレチックを満喫しました。夕食後は、保護者の方のスタンツも交えたキャンドルサービスで楽しい一時を過ごしました。

翌日は、浜田広介記念館を見学し、映画の鑑賞もしました。そして、かやぶき屋根の浜田広介の生家で、囲炉裏を囲み楽しい昼食をとり帰路に向かいました。

今回のキャンプの目的は、「自然を感じよう」「思いやりの気持ちをはぐくむ」でしたが、100%達成できました。

素敵な笑顔と笑い声の聞こえる素晴らしいキャンプとなりました。



カントリー大作戦実施

平成19年度「スカウトの日」事業として9月17日(月)県下16団で実施しました。

実施各団の(缶トリー)の結果は1775個。
雨模様の中での各団の実績は、即日、日本連盟に報告いたしました。



募金活動 !

8月18・19日に行われた24時間テレビ“愛は地球を救う”のイベントの一環として、19日午前10時からヨークベニマル(株)角田店前で、配布さ



れた黄色のTシャツを着用し、ロータリークラブの方々と一緒に、午後5時までの長丁場でしたが、募金のパートと休息するための風船作りのパートとに分け、交代しながら募金活動を行いました。

幸いにも好天に恵まれ(日差しが強く、暑い日だったが)、丸森町にある伊具高等学校吹奏楽部

角田第1団ボーイ隊長 油井政之の協力もあり、華やかな演奏がお客さんをお呼び集め、また、スカウトが懸命に募金をお願いする姿に、皆さんの財布の口も緩み金額も若干増えたように見えました。

皆様から頂いた募金は社会福祉協議会の職員に渡し、マーキーテントの解体など後片付けの後活動を終了しましたが、募金金額を担当者に伺うと「正式に数えていないが、例年と同じ20万円位じゃないか。」ということでした。

この募金は、お年寄りや身体の不自由な方々への支援、地球環境保護支援、災害緊急援助等に使用されており、我々を取り巻く身近な環境や他者を労わる心などについて考える機会として毎年行っており、これからも続けて行きたいと思っております。

ボーイスカウト岩沼第1団市民夏祭りに参加

8月25日ボーイスカウト岩沼第1団では今年も岩沼市民夏まつりに参加した。

パレードでは鼓隊が先頭集団として、小さな身体でドラムの重さに脚を引き吊り乍らも、先輩スカウトのプラカードに続いて一生懸命行進をした。また、鼓隊の後ろに続いた若手リーダー達の隊旗集団は颯爽と行進してパレードに花を添えた。

スカウトコーナーのテントの前では「立ちかまど」を展示して、とうきびなどを焼き、来場者に試食して貰ったり、いろいろなゲームが来場した子供達に好評であった。

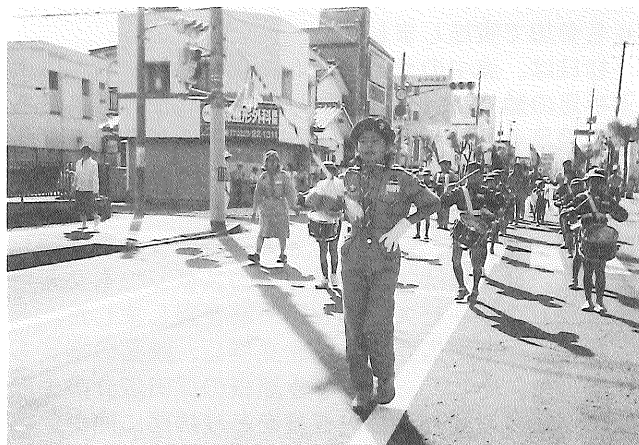
時間も進み、特設会場での『よさこいソーラン』コンテストに参加したカブ隊が主力のチームは、更にメインステージの大舞台上で踊った。スカウト達は生まれて初めてスポットライトを浴びて数千人の大観衆の見守る中、ステージ上に整列した。

司会者から、先のコンテストで特別賞を受賞したことが発表され『このスカウト達は、伊勢市に

岩沼第1団 渡邊七郎

於ける全国大会でも踊り、毎年養護施設慰問の奉仕活動を行っております…」と紹介され、大いに面目を施した。やがて、大舞台では音楽が鳴り響きステージ一杯の踊りが繰り広げられ、スカウト達の夏休みは喜びと感動の裡に幕を閉じた。

また、これらの活動によって10件に近い入団申込や問い合わせがあったことは幸いであった。



国旗・大会旗を掲げて奉仕45年

高清水第1団ボーイ隊隊長 浅沼誠志

ボーイスカウト宮城県連盟高清水第1団スカウトが、栗原市高清水地区市民運動会の開会セレモニーに国旗を先頭に入場行進。カブスカウは参加各地区のプラカードを掲げて入場。開会式では国旗・大会旗がスカウトの手で秋晴れの空に高々と掲げられました。



この奉仕は高清水第1団が宮城第402団としての発団以来今年まで40年以上続いているもので栗原市への合併時には町の教育委員会から長年の奉仕活動への善行表彰も受けており、更に運動会終了後の会場清掃奉仕等スカウト制服姿でのきびきびした奉仕活動は市民（区民）にはなじんだ姿で例年続いての奉仕活動は市民や関係者からは大きな感謝と好評を受けています。

楽しかった、団キャンプ

私の団はたん生して、50年になり、8月3日から5日まで、南蔵王の国立野営場でやりました。とても楽しいキャンプでした。

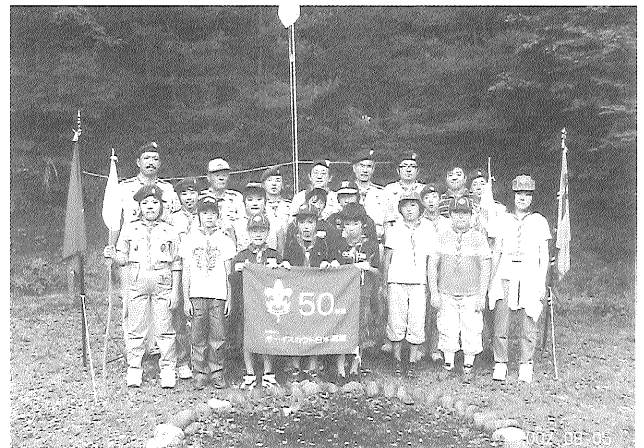
一つは、流しそうめんです。竹を半分に切って二段にして、水がながれ、なかなかとれなかったけど、そうめんのほかに、トマトや、きゅうりとか流れてきておもしろかったです。

次は工作で、木の葉、えだ、小石などを板にボンドではりつけます。チョウチョを作りました。羽根がきれいにできました。また、食堂近くの木のえだにへびがいたので、みんなびっくり、五人ぐらいで石をなげたら、1コあたり下におちました。みんなにげました。

それから、片山さんと、しんくんと三人でイスにすわっていた時に、ネコが歩いているのが見えました。オレンジっぽい色をしていました。隊長に聞いたら、ヤマネコではないかといっていました。

仙台第28団カブスカウト隊 我妻優香
た。

キャンプ場は昼も夜も虫がうるさく、ブヨにさされてかゆかったです。でも、とても楽しい思い出のおおいキャンプでした。



「上進準備のキャンプで」

石巻第一団恒例のカブ隊、ビーバー隊、合同野外キャンプ（ビーバーは日帰り）を行いました。

キャンプには、今年の新入隊希望者3名を招待してスカウトといっしょにゲームやキャンプ場内を流れる小川で沢ガニや小魚をつかまえてその数を競い合いました。

テントを設営しているうちに炊事場近くの丸太で“セミ”が“脱皮”しているところを発見し大騒ぎになりました。みんな本物の脱皮を見るのは始めてなので写真に撮ったり飛び立つのをジーンと見つめていました。

テントを張る作業があったので交代で観察していたら1時間位で古いカウから出て、ぬれた羽根を乾かし、勢いよく飛んでゆきました。

石巻第1団カブ隊隊長 阿部正一
みんなで飛び立った方に向かって“がんばれー”とよびながら拍手をしました。
スカウトも翔べ！！翔べ！！「富士」の峰まで

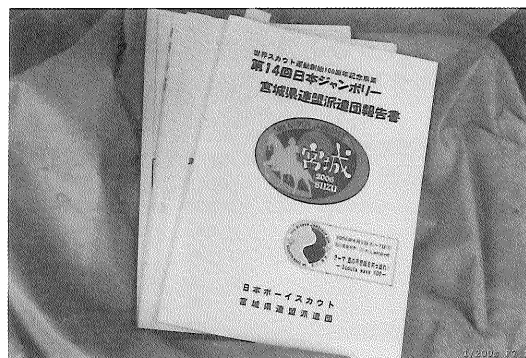


第14回日本ジャンボリー宮城県派遣団報告書刊行

2006年8月3日から石川県珠洲市を主会場に開催の第14回日本ジャンボリーの県連盟派遣団報告書がこのほど編集完了発刊されました。

宮城県連盟総数222名派遣団の報告書は170ページを超すボリュームのもので郷家照夫派遣団長、横沢繁事務局担当の労が深く込められた内容。

参加隊員の活動が写真や活動報告から直に伝わる充実の冊子は400部発行で近々参加隊員、関係指導者、ボーイスカウト運動支援各機関等に贈・配布されることと成っています。



スカウト@リンク 石巻2団・6団ボーイ隊合同キャンプ

「3泊4日は予想以上にきつかった」
いつになく暑い日が続いたこの夏、スカウトは暑さと闘いながらも野営を楽しみました。

8月11日から3泊4日の日程で登米市東和町三滝堂キャンプ場にて石巻2団、6団ボーイ隊合同キャンプが「スカウト@リンク」と銘打って行われました。

暑さを避け、涼を求める人々にぎわう親水公園から少し離れたキャンプ場は、スカウトキャンプのため貸切となり心置きなく活動できました。

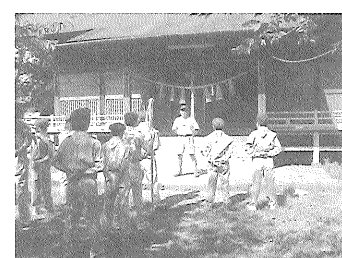
近くを流れる清流は格好の釣り場。滝のように流れる汗を拭きながらの設営を終わったスカウトは早速釣竿を持って川の中へ。初めて魚を釣ったスカウトもいて魚から針を外すことができず四苦八苦していました。

石巻第6団ボーイ隊 蟻坂 隆

四方を山に囲まれている地形からか風がなく、蒸しあげられるような暑さの中で日中の活動が行われましたが、熱中症になるスカウトもなくプログラムを楽しむことができました。

また、21WSJから12日に帰国したばかりのスカウト、リーダーがお土産を持って訪れ、WSJの話に花を咲かせていました。

今回のキャンプは6団リーダー・スカウトがWSJに参加したため2団リーダーに多大なご苦労をおかけしたことをお詫びし、連帯（リンク）の絆に感謝いたします。



出発式（石巻市青葉神社）

【訃報】 先に日本ボーイスカウト宮城県連盟名誉会議議員を務められ、宮城県連盟石巻地区協議会長で在られた三浦章氏が永眠され、8月30日千田好男宮城県理事長葬儀委員長にて葬儀が執り行われました。

また、故人長年のボーイスカウト運動尽力を讃えて宮城県連盟から県連感謝章が追贈されました。

謹んでお知らせ申し上げます。

編集後記

平成17年6月スカウトみやぎ編集スタッフ新構成での第7号からここに重ねての第15号、地区・団のスカウトの動きが見える原稿写真をお届けの諸氏に感謝。

今回夏期活動の集大成・世界ジャンボリー・各種大会・野営参加記事のそこそこにそれぞれ奉仕のリーダーの姿が映る。

今号、原稿締め切り後の記事多く次号に送ること無く掲載としたことで地区・団記事前後の事ご容赦。

あらためての事です。ボーイスカウト創始100周年記念冠事業実施報告県連盟事務局宛て報告願います。

今年の最終号今後も編集子一同平成20年にむけ鮮度の高い地区・団の記事送稿に期待。（堀）

■ 発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟

■ 編集 宮城県連盟広報委員会

委員長 堀越祐寿

副委員長 渡辺七郎

委員長代行 柿沼富雄

高橋 修・久光和明

砂押名湖・大沼茂雄

〒981-0915 仙台市青葉区通町1-6-9

宮城県通町分庁舎内

TEL/FAX 022-234-2359

■ 印刷 株式会社小野寺印刷所